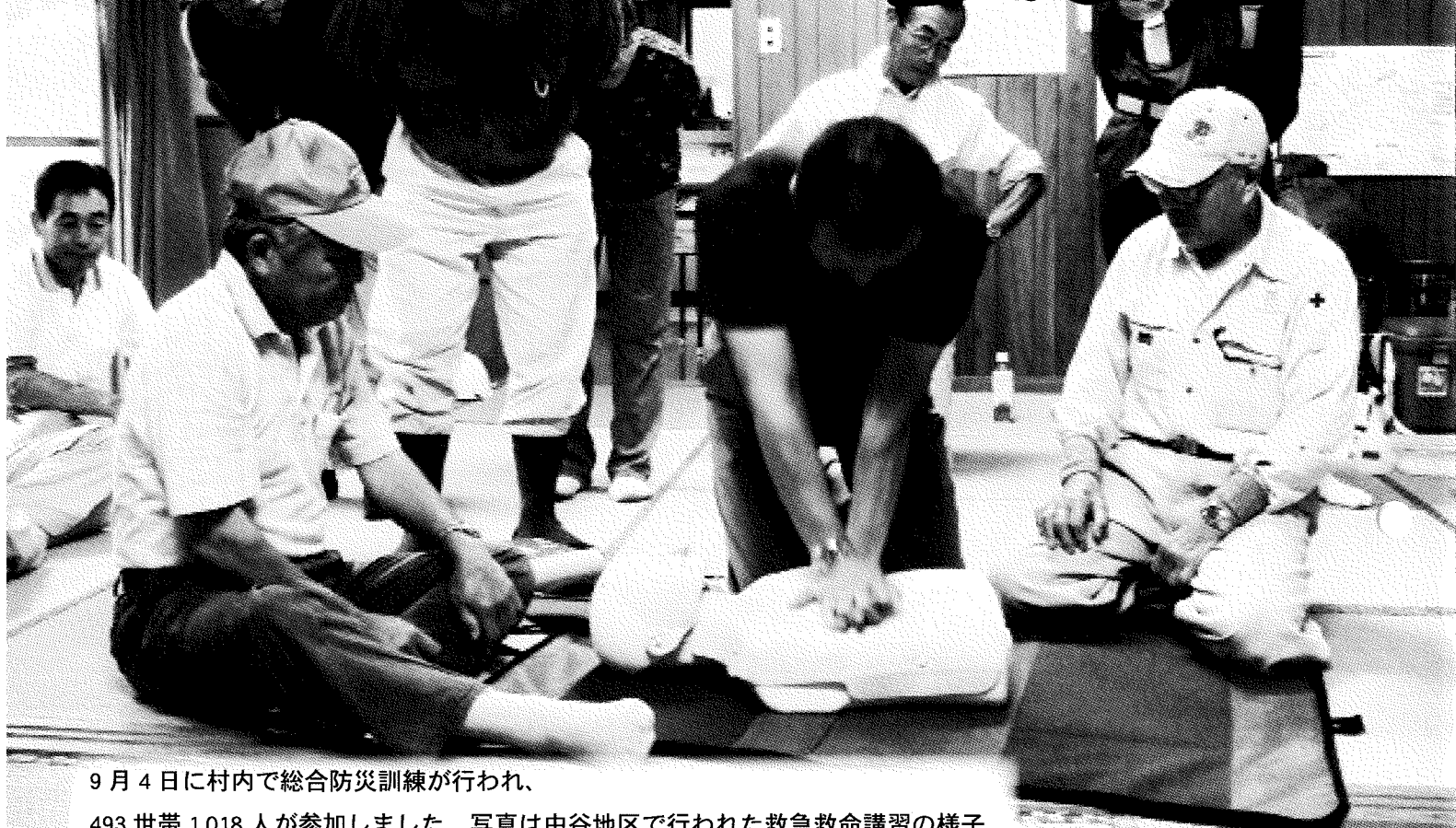


ひがししらかわ



9月4日に村内で総合防災訓練が行われ、493世帯 1,018人が参加しました。写真は中谷地区で行われた救急救命講習の様子。

今月の村長室から

「日本で最も美しい村」連合加入内定。

かねてより申請をしていましたNPO法人「日本で最も美しい村」連合加盟について、村民の皆様のご協力により、加入内定通知が八月二十五日に届きました。この連合には現在全国に町と村、地域を合わせて三十九か所が加盟しています。正式には十月八日、北海道赤井川村で行われる臨時総会で決定となります。加入の決め手となったのは、里山景観を作り出す特産の白川茶の文化伝承と活用、ブランドである東濃ひのきの育成保全と木造住宅産業への展開及び住民主体の環境や景観の保護活動を通じた里山の保全、といった地域資源を生かした活動への取り組みです。村の景観だけでなく伝統文化や歴史を含め総合的に高く評価されたことは大変喜ばしいことであり自慢でもあります。今後いかに継続させていくことが重要であると思っていますので、村民ごぞつてこの誇るべき美しい村を後世に残していくよう目的を持って進みたいと思っております。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

加入イベントを開催します。

加入を記念して村民参加のイベントを計画します。十一月に開かれる秋フェスタにおいて、「東白川村の四季」をテーマにした写真コンテストと、協定集落活動の写真展示を行うこととしていきます。細部については後日お知らせしますので、奮ってご応募下さい。皆様のご参加をお待ちしています。

海外からの助っ人 国際ボランティア来村



サビロ谷での作業の様子

○東白川村で活動と交流

毎年村に訪れ色々な作業や交流を行っている「国際ボランティア」。今年はフィンランド・カナダ・韓国から各一名、名古屋商科大学から九名のボランティアが来村しました。同大学では毎年CIEE(国際教育交換協議会)から国際ボランティアを受け入れ、創始者の出身地である東白川村に同大学のボランティアサークルのメンバーとともに派遣、今年で十三年目となります。

村内で行った活動は、神田殿や越原神社の清掃のほか、サビロ谷をマス掴み体験などができるように中学生とともに整備する作業、地域の夏祭りの準備の手伝いなどです。また、歌舞伎や太鼓の練習の見学、水墨画の体験、浴衣を着て東白川夏祭りに参加するなど、日本の文化に触れ楽しんでいました。また、八月九日には中学校を訪れ、三年生と交流しました。生徒は、英語を使って校内の案内、折り紙を教える、ボランティアに質問を行うなど、本格的な英語を体験できた良い機会となったようです。

○国際ボランティアとは

CIEEのプロジェクトの一つで、毎年春と夏に世界約三十カ国にて二〜三週間ボランティア活動を行います。環境保護、お城や教会の修復や修繕、子供と遊ぶ、海ガメの保護など国によって様々な活動をします。

参加者は、現地までの航空券、保険の手配などの渡航手続きや現地の情報収集などはすべて自分で行います。したがって目的を達成しようという強い意志や自立心、危機管理能力が求められます。

このプロジェクトは、ボランティア活動をするだけでなく、世界中の仲間と寝食や生活を共にしながら、お互いの文化を学び、自身自身の視野を広げることを目的としています。



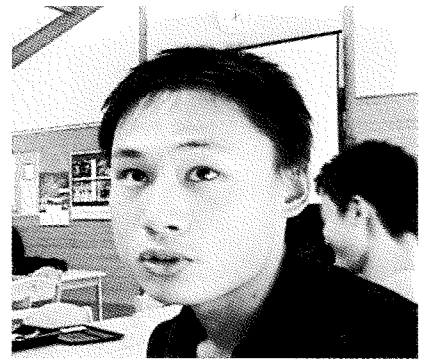
夏祭りには村長から感謝状が送られました



ナルヒ・ヘイニ・ハタ・エヴェリーさん
(スウェーデン)



キム・ミンジさん
(韓国)



ジャン・アレックスさん
(カナダ)

今回国際ボランティアのジャン・アレックスさんに、お話を伺いました。

ボランティアに対する気持ち

ボランティアは高校時代から様々な場所でやっていました。ボランティア自体はやっていてとても楽しいです。また、国際ボランティアは他の国の文化を学んだり、また言語のレベルを高める事が出来る、仲間とともに過ごしたり現地の人々と関わることで人と人とのふれあい大切さを学ぶなど、自分の成長につながるとても有意義なものです。これからも続けていきたいと考えています。

東白川で印象に残ったことは

美しい自然はもちろん、村の人々の優しさ、団結力が特に印象に残りました。フレンドリーで常に他人の事を思いやっていると感じましたし、お祭りの準備などでは、住民の皆さんが良いイベントにしようとして協力して頑張っていて、本当にこの村が好きなのだと感じました。

最後に村民に一言お願いします。

この村で活動できる機会をくれた東白川の皆さんにはとても感謝しています。これからも、良い村であり続けてください。

国際ボランティアと交流や共同作業をした中学生三年生の皆さん

・安江謙太さん(下野)

今回はとても貴重な体験をすることができました。九日は海外や大学の方々と楽しく交流することができ、十・十三日にはサビロ谷の整備をすることができました。

・安江俊二さん(西洞)

サビロ谷での作業はどの日も楽しく作業できてよかったです。九日には国際交流を通して、海外の方とたくさん接することが出来たので、この経験を社会に出たときに活かしていきたいです。

・桂川 桃さん(黒淵)

私は国際交流に参加して、最初は緊張していたけど海外の方が笑顔で話してくださったので緊張がとけました。また会話の中で聞き取れないことがあると、私が理解するまで何度も説明してくださってすごく嬉しかったです。貴重な体験になりました。

・松岡亜希さん(陰地)

国際交流に参加して、私はたくさんの方と関わる事ができました。海外の方の人数は少なかったですが、少ないからこそ、全員の方と話をして関わる事ができた

し、たくさんの事を学ぶことが出来てうれしかったです。

・安江元希さん(柏本)

僕は、学校行事の国際交流で、海外の方とふれあうきっかけがありました。すぐに打ち解ける事が出来てとても楽しかったです。また、ボランティアの作業で海外の方々と一緒にサビロ谷の整備をしました。言葉は違っていても、意思の疎通はできるということを実感しました。

・安江 瑞さん(日向)

私は、国際交流に参加して、初めはどう接していいのか分からなくて、上手く伝える事が出来ませんでした。使ったジェスチャーなどを使って通じたときはとてもうれしかったです。今回の体験はとってもいい経験になりました。

今の世の中では、様々な場面で国際化が急速に進んでいます。

今回、中学生三年生の皆さんには学校での交流や共同のボランティア作業を通じて、それについての理解や新しい価値観を育むことができた良い機会になったようです。

あらためて知る「東白川村」

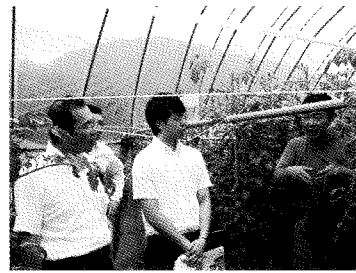
—教職員村内視察研修—
 今年四月に村に赴任した教職員を中心とした村内視察研修が八月五日に行われ、小学校・中学校・保育園から計七名が参加しました。村の地理や産業、歴史を知ってもらうために毎年行われていきます。訪れたのは、トマト選果場や岐阜部品、古いもの館、蟠龍寺跡など十二カ所。トマト農家の桂川公幸さん（大明神）宅でトマトの収穫についてや、蟠龍寺跡地にて白川茶発祥の地であることなど、



「白川の話」を聞く子どもたち

鮎釣りの楽しさを体験
 —鮎釣りアカデミー—
 八月六日に中川原水辺公園で観光協会主催の鮎釣りアカデミーが開催されました。このイベントの主な目的は、子ども達に鮎釣りを

楽しんでもらい、自然とのふれあいの大切さを知ってもらうことです。参加者は地元の子や大垣市、各務原市、名古屋市の小学五年生、中学二年生ら七人。アカデミーの安江力男さん（下野）から白川についての色々な話を聞き、村内の釣り名人四人からアドバイスを受けながら釣りを楽しんでいました。会長の安江建夫さん（平）は、「子ども達にはぜひ来年も参加して釣りと自然に触れ合う楽しさを味わってほしい」と話していました。



桂川さんからトマトについての説明を受ける

各所で説明を受ける度、教職員の間から感心の声が上がっていました。村に住む子どもたちにかかわる教職員の皆さんにとって、村をあらためて知る良い機会となったようです。

暑さを忘れて楽しむ

—東白川夏まつり—
 東白川夏まつりが八月十四日に中川原水辺公園にて催されました。この日は村外に出ている若者の姿も多く見受けられ、来場者数は約千五百人と会場は大変賑わいました。夕方の盆踊りでは、老若男女大勢の人々が参加し盛り上がりました。この夏まつりは、平成十六年から「フイールグリーン」という名称で開催されてきましたが、わかりやすい方がよいという意見が多く「東白川夏まつり

大会結果をお知らせします

—夏季スポーツ大会—
 十七回目を迎える大会が、八月二十一日から二十六日まで村内各所で行われ、参加者約百八十人がさわやかな汗を流しました。

【大会結果】（敬称略）
 ソフトバレーの部（二十一日・中学校体育館） 優勝 華の木 準優勝 MIX2 三位 プラスワン
 グラウンドゴルフの部（二十二日・総合運動場） 男子の部 優勝 田口功（大明神） 準優勝 有賀政晴（平） 三位 村雲茂（中通）

2011」となりました。来場者からは「大変元気が感じられて良い」「また来年も来たい」などの声がありました。来年も活気あふれる夏まつりの開催が期待できます。



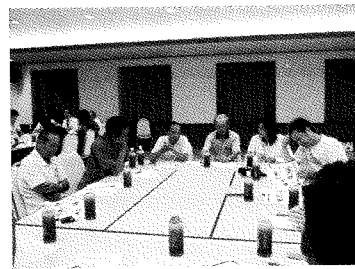
盛り上がりを見せた盆踊り

女子の部 優勝 有賀汎美（平） 準優勝 安江登貴子（上親田） 三位 安江小枝子（大明神）
 ゲートボールの部（二十四日・総合運動場） 優勝 仲良し会 準優勝 長寿会 三位 明清会
 ソフトボールの部（二十二日・二十六日・総合運動場） 優勝 五葉 準優勝 小谷 三位 平、花の木
 ソフトテニスの部（二十五日・二十六日・テニスコート） 優勝 永田弘二・永田由紀代ペア 準優勝 松岡亜希・桂川桃ペア 三位 松岡奈々・長谷川かよペア



黙禱を捧げる参加者一同

平和への誓いを新たに
— 平和を祈念する行事 —
終戦から六十六年目を迎えた八月十五日、国の全国戦没者追悼式に合わせ、戦没者二百二十四柱、満州開拓関係物故者九十二柱を慰霊し平和を祈念する行事が行われました。越原神社の今井好美宮司により祭事が執り行われ、参列者は十二時の時報に合わせて一分間の黙禱を行い、献花をしました。執行委員長である熊澤健さんは「戦争体験の風化を懸念する声もあるが、どうか毎年巡ってくる八月十五日には、犠牲者の慰霊とともに平和への誓いを強固なものにしていただきたい。」と話していました。戦争の恐ろしさを語り継いでいき、平和な社会が築かれていくことを願います。



様々な意見が飛び交いました

村の未来を考えます
— 第一回官民協働勉強会 —
住民と行政が共に協力して課題解決に向けた取り組みを行う事を「官民協働」といいます。その仕組みを検討する勉強会が、八月二十四日にはなのき別館ふれあいホールにて行われました。参加したのは公募で集まった十人のほか、村内各種団体の代表者など。第一回目となる今回は、まず資料にて村の現況の確認、先進事例の学習をし、その後三つの班に分かれて村の未来像、課題などについて意見交換を行いました。人口対策が最も重要な課題であると多くの方から挙げられ、その課題に集中して取り組んでみてはどうか、などの意見がありました。次回の勉強会は長野県小布施へ先進地視察を行います。

保険証がカード化で便利になります

◆ 国保の被保険者証がカード化

平成二十三年十月一日から、今まで世帯ごとに発行されていた被保険者証が個人単位のカード証に変更になります。被保険者証のカード化（個人証）により、家族がそれぞれ持つことができるので、病院での利用や旅行での携帯など便利になります。

◆ 被保険者証・高齢受給者証等のお届け方法

① 新しい被保険者証は、九月末までに自宅に郵送されます。なお、郵送された被保険者証は、台紙に貼り付けてありますので、はがしてお使い下さい。

② 七十歳以上の人に交付される高齢受給者証等の様式は、大きさは今までと同じで変更ありません。該当の方には、被保険者証と併せて郵送されます。

※被保険者証が九月末日までに郵送されない場合やご不明な点は、役場村民課住民係（内線120）までご連絡下さい。

注意事項 保険医療機関等において診療を受けようとするときは、必ずこの証をその窓口で渡してください。

問合せ先 東白川村役場 村民課 TEL(0574)78-3111

※以下の欄に記入することにより、臓器提供に関する意思表示をすることができます。記入する場合は、1から3までのいずれかの番号を○で囲んでください。

- 私は、脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも、移植の為に臓器を提供します。
- 私は、心臓が停止した死後に限り、移植の為に臓器を提供します。
- 私は、臓器を提供しません。

〈1又は2を選んだ方で、提供したくない臓器があれば、×をつけてください。〉
【心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球】

〔特記欄〕

署名年月日： 年 月 日

本人署名(自筆)：

家族署名(自筆)：

国民健康保険 被保険者証	有効期限	平成25年 3月 31日
記号番号	9999999	
被保険者	ヒカシシラカワ タロウ	
氏名	東白川 太郎	
性別	男	生年月日 平成10年 4月 1日
住所	東白川村神土548	
世帯主氏名	東白川 太郎	
資格取得日	平成22年 1月 1日	
交付年月日	平成23年 10月 1日	
保険者番号	211037	保険者 東白川村

《裏面》 臓器提供の意思表示

《表面》 新しい被保険者証

子育てママの会
10月の開館情報

月	火	水	木	金	土	日
					①	2
3	4	5	6	7	⑧	9
⑩	11	12	13	14	⑮	16
17	18	19	20	21	⑳	23
24	25	26	27	28	㉑	30
31						

○村民ウォーキング大会

教育委員会

期日 十月十六日(日)

八時四十五分～

九時十五分受付

場所 中川原水辺公園

参加方法 参加費は二百円で
す。二人～五人までのグルー
プで参加してください。(個
人参加はオープン参加となり
ます。)

持ち物 おにぎり・水筒・帽
子など(ウォーキングのでき
る服装で参加してください)
また、昼食に豚汁を用意して
ています。

申込方法 電話等で教育委員
会にご連絡ください。(内線
421)

○里親説明会のお知らせ

中濃子ども相談センター

子どもが健やかに育つため
には温かい家庭が必要です。

生みの親が事故や病気・離婚
等、さまざまな家庭の事情に
より自分の家庭で暮らせなく
なった子どもたちがいます。

このような子どもたちを児童
福祉法に基づいて「里親」と
して家庭で育ててくださる方
を募集しています。関心をお
持ちの方は説明会にご参加く
ださい。

▼日時 十月二十三日(日)

午前十時～午後三時

▼場所 美濃加茂市生涯学習
センター四〇二号室

TEL:0574・25・4141

※開催時間中、いつお越し
ただいても結構です。お越し
になった方から順に個別に相
談を承ります。

※詳しくは中濃子ども相談セ
ンター(0574・25・3
111)までお問い合わせく
ださい。

短歌



花筵 敷きたるごとく 紅に

百日紅の花 雨に散りそむ

嫁ぎます ゆく前一度 逢いたいと

手紙呉れし君 今はまぼろし

空蟬を 葉裏に残し 逝く夏の

頬に触れゆく 涼風淋し

かみ合わぬ 事一つ呑みこみ 草引けば

胸切れしミミズ とび出しはねる

真夜中の 留守電の声 二度聞きて

何にも告げずに 受話器を置きぬ

化粧なく もんべまといし 乙女は今

華やく孫に わが青春たくす

孫の来る 夏休み待つ 老いし身の

仕事に追われつつ その日を数う

孫二十歳に なれど節句の 兜出し

育ち来し日々の 思いに浮かぶ

又今日も 黄砂舞い来る 山里の

慣れの怖さよ ニユースにもならず

車音の 激し歩道を 合間行く

杖を頼りの 老母たくまし

赤道を 越えて連なる 島々の

暑さ想へり 夏来たりなば

雪は降る 夜更けの庭に しんしんと

わが耳鳴りは ミーミーと鳴く

セーターに 草の実一杯 つきて居り

皇居奉仕を 終えて帰れば

(平成十九年発行 木の実会短歌集【第一集】から)

今井米子

今井光彦

菊田良香

菊田清美

小林道子

田口かずみ

早瀬久子

古田 緑

安江嘉子

安江守平

安江嘉久一

安江とくよ

安江 澄

人口の動き

～8月末住民登録人口から～

世帯数	871世帯
人口	2,699人
(男)	1,294人
(女)	1,405人
転入	3人
転出	6人
出生	3人
死亡	5人
先月と比較して	10人減
昨年と比較して	59人減

編集後記

官民協働の勉強会には、私も同席させていただきました。意見交換の場では村民の皆さんが村について問題であると考えているのは何か、また勉強会についても「こうした方がいいのでは」などの意見も挙げられていて、村を良くしていくたいという意識の高さを感じました。村に来て一年にも満たない私にとって、村民の方々の村に対する思いを知る事ができる良い機会になりました。勉強会で知りえたことを活用して村に役立てる広報とは何かを考えていきます。(T)